



No. 8, 2003.7.15

## 第53回国立大学工学部長会議・総会

第53回国立大学工学部長会議・総会及び併設の第12回海外技術協力委員会が香川大学の当番により5月15日(木)・16日(金)の両日、全日空ホテルクレメント高松で開催されました。

15日には海外技術協力委員会、及び工学部長会議・総会の懇親会が行われました。16日の総会には、文部科学省高等教育局専門教育課の吉村課長補佐の列席を得て、関係する国立大学及び公立大学(65大学71学部)から146名の出席がありました。

まず、石川工学部長の開会挨拶に引き続いて、吉村課長補佐から平成15年度予算主要事項の概要及び国立大学機構定員関係予算の概要等について詳細な説明がありました。次いで、協議事項「国立大学の法人化移行に関する諸課題について」、「教員の任期制について」、「工学系教育の改善について」及び「産学連携の取組みについて」など活発な意見交換と協議が行われました。

また、文部科学大臣等53の関係機関に、次の7項目について要望事項を提出することが採択されました。①安全管理について②工学系大学院の教育研究体制の充実について③地域共同研究センターの整備充実について④文教施設整備関係費の増額について⑤高等教育予算の増額について⑥博士課程学生への経済支援の充実について⑦学部別授業料制度の実施に対する反対について。(広報室)

## 国立大学工学部長会議・総会を終えて

香川大学工学部長／大学院工学研究科長 石川 浩

本会議・総会は昭和28年の創設以来、53回にわたり全国各地で持ち回り開催され、産業の復興期、高度成長期、成長鈍化期、バブル期とその崩壊期等、それぞれの時代要請を反映した工学教育上の諸課題を討議し、その結果を各々の教育現場にフィードバックしてきた。参加大学・学部は65大学71学部に及び、すべての国立大学工学系学部・工業大学を含んだ組織となっている。



特に今回は、来年度の国立大学法人化という未曾有の大変革を控えた極めて重要な節目に当たっており、全国一新しい本学工学部が幹事大学として本会議・総会を開催できたことは、感慨一入なものがある。文部科学省関係者のご列席を得て、前日の懇親会では瀬戸内の珍味や讃岐うどんに舌鼓を打ちながら、忌憚のない意見・情報・友好交換を行った。翌日の本会議では、法人化後の本会議・総会の在り方をまず討議し、今後も適切な形で継承存続させることを合意した。次いで法人化に伴う様々な諸問題に対して熱心な意見・情報交換、討議を行い、法人化後も相互に連絡を密にし、これまで通り工学教育の改善および発展を図っていくこと、関係機関への要望事項等を決定し、盛会裡に本会議・総会を終了することができた。関係各位に深甚なる謝意を表して置きたい。

## 新任教官就任挨拶（4月1日付着任）

### 安全システム建設工学科 教授 神崎 正

瀬戸内海は、大成建設在職中に本四連絡橋の3ルートに関係し、特に明石海峡、来島海峡は調査段階から施工まで関わり、大変身近に感じています。そのほか、関西空港、東京湾横断道路などの海洋プロジェクトへ参加しつつ、さまざまな研究開発に取り組んでまいりました。



また、ロックフィルダム、橋梁、トンネル工事における情報技術の導入や雲仙普賢岳、有珠山などの無人化施工など、新たな建設マネジメントの領域の拡大にも努めてきました。

これからはこうした経験を活かし、立場は違いますが、新たな視点で教育・研究に取り組んでいきたいと考えています。

### 知能機械システム工学科 助教授 高橋 悟

東京電機大学大学院を修了後、民間企業および国内外の大学において研究・教育の両面に携わって参りました。これまでの経験をいかし、若い本学部のためにお役に立ちたいと存じます。



研究の専門はシステム制御であり、近年は画像認識等のマシンビジョン分野に対してシステム制御論の応用を行っております。

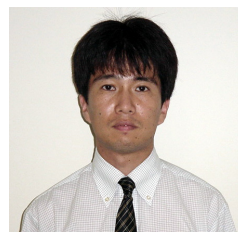
また、四国・高松という文化にはじめて触れ、生活環境も楽しみながら、香川大学での教育・研究に従事して参りたいと存じます。

赴任したばかりであり、至らないことがあるかと存じますが、ご支援、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

### 安全システム建設工学科 助手 山中 稔

隣県の高知県で生まれ、高知高専を卒業したあと、長崎大学で学部・大学院生活を過ごし、民間

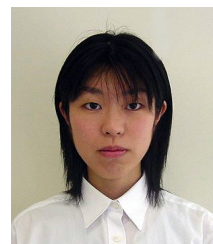
会社でボーリング調査を一時期経験したあと、長崎大学に約10年間勤めておりました。



専門はインフラ保全環境工学分野で、地域に雲仙普賢岳の火山性堆積物やヘドロ、さらには都市ごみ焼却灰のそれぞれの有効利用策について、地盤工学的見地より研究してまいりました。自然発生的に生じた堆積物（自然廃棄物と私は言っています）を、不要物としてではなく貴重な有価物として利用が可能となる、それも発生した場所で有効活用できる方法を見出ししていきたいと考えています。本学部で勤務できることをたいへんうれしく思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。

### 安全システム建設工学科 助手 野々村 敦子

皆様、はじめまして。平成15年3月に三重大学大学院生物資源学研究科博士後期課程を修了し、4月から水システム工学講座に着任しました。三重大学では、GIS（地理情報システム）と衛星データを用いて、アフリカ大陸の気候と環境に関する研究を行ってきました。今後は、香川県の水質浄化や自然環境の改善に直結するような研究活動に取り組んでいきたいと思っています。



着任してから日々支えて頂いている方々に、少しでもお応えできるように成長していきたいと思えます。どうぞよろしく願い致します。

### 知能機械システム工学科 助手 細木 真保

愛媛大学大学院理工学研究科を修了後、民間企業にて主として自動車用構造用鋼のフリー鉛化の研究に従事、その後香川大学工学部にて教務職



員として勤務しながら博士を取得しました。これまでの研究では、熱エンジンや締結素子用の形状記憶合金を扱うなど、主として材料の機械的特性について取り組んできましたが、現在は工学部に

てマイクロマシンの研究に携わっております。今後はこれまでの様々な経験を活かして、教育・研究に従事していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 新入生合宿研修

工学部では、4月第3週末に学科別の新入生合宿研修を行っています。今年は、安全システム建設工学科の合宿の様相を紹介します。(広報室)

※ ※ ※

春の瀬戸内は空気が明るい。その明るい空の下、安全システム建設工学科の新入生合宿研修は、「屋島少年自然の家」を主会場に開催されました。合宿研修のハイライトはKJ法を用いたワークショップ(WS)でした。最初に1時間「日本の近代土木を築いた人びと」と題するビデオで学習をし、次いで、1班を新入生6名に院生などの上級生1名を加え、10班編成で、「自分でやってみたいプロジェクト」などのテーマを班別に与え、2時間の作業をしました。最後に、残り1時間を各



KJ法研修の様子

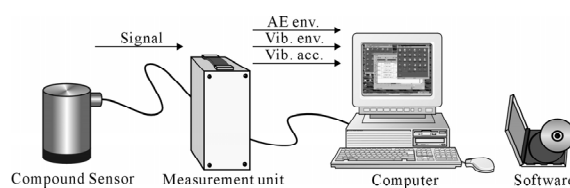
班の発表にあてました。研修直後に課した感想文によると、このWSが新入生に与えた影響は大きく、自分の発言や行動、今後学ぶべき対象、考え方の刺激等々多様な視点からインパクトの大きさを述べていました。(安全システム建設工学科 森下一男)

## 研究室紹介：材料創造工学科 若林研究室

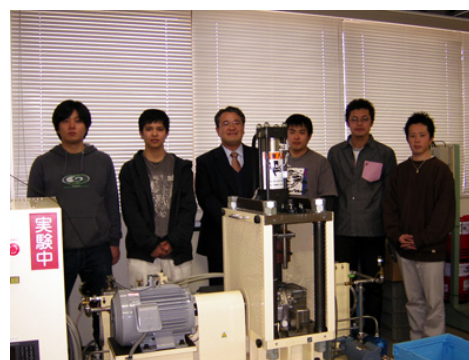
皆さん、「トライボロジー」をご存知ですか？ギリシア語の「トリボス (tribos=摩擦する)」に由来してできた言葉で、潤滑技術や材料工学、表面科学などを活用した摩擦のコントロールと摩擦の軽減が目的の、機械の順調な運転には欠かせない工学の一分野です。

若林研究室では、「環境と調和し持続可能な社会の実現に貢献するトライボロジー」をめざして、大学院生2名と学部生3名が研究に取り組んでいます。最近の成果では、数万分の1の量で従来と同等以上の性能を発揮する高機能・低環境負荷潤滑油を開発・実用化し、生産性の向上ばかりでなく環境にも優しいエコバランス製造システムの構築に有用と期待されています。また、軸受や歯車など、その損傷がトライボロジーと密接に関連する機械要素の異常診断や寿命予測のために、新しいタイプの複合センサーや潤滑油中摩耗粉解

析による状態監視システムの実証検討を行っています。



複合センサーによる状態監視システム



研究室メンバー



## 特集：香川でインターンシップ中の海外からの学生

工学部では、平成12年から海外のインターンシップ協定校と交換受入を実施しております。平成15年度は派遣・受入各4名となっています。今回はこのうち香川県の企業でインターンシップを行っている2名の方にご寄稿をお願いしました（翻訳：広報室）。また、協定校以外の海外学生の研修受入についての指針が、今年4月工学部に作られました。これに基づいて工学部でインターンシップを行っている、アメリカ在住の田中崇仁さんにもご執筆いただきました。

※ ※ ※

### 違いを越えて

私が日本に来たいと思った理由はいくつかあります。インターンシップに加えて、私自身のために、他の国や人や文化を知りたかったからです。また、将来の仕事のためにも国際的な経験は非常に役立つだろうと思いました。日本に来て2ヶ月が経ちましたが、日本滞在はとても楽しく、皆さん親切です。

私は工業系の大学（サボア大学）の5年生で、コンピューターとエレクトロニクスが専門分野です。学位取得のためにインターンシップが必要で、日本語は話せないのですが、日本をインターンシップ先に選びました。

外国の人たちと働くことは難しいと思われませんが、言語の壁は簡単に通り抜けることができます。大多数の人が多少の英語を話すことができ、コミュニケーションが困難な場合でも、インターネットや通訳ソフトを使うことができます。議論は難しいかもしれませんが、ちょっと辛抱強くがんばるとできると思います。

フランスと日本の文化は全く違います。例えば、フランスではふつうパンを食べますが、日本では米で、私はフォークとナイフを使うのには慣れていますが、ここでは箸を使わなくてはいけません。このように様々なことが異なっていて、最初は大変でしたが、しばらくすると慣れてきました。

文化だけでなく、考え方の違いもあります。日



Florent PATIN さん（中央）と  
隆祥産業の皆さん

本ではチームワーク中心ですが、フランスやヨーロッパは個人主義が中心です。こういった違いは、私にとって勉強になることがとても多いです。ですから、大変だと思っても外国へ行く機会がある人には、是非行くことをおすすめします。

最後になりますが、日本は本当に興味深い国で、インターンシップができたことを本当に幸いに思います。

（Florent PATIN, サボア大学、隆祥産業株式会社にて4月7日から8月8日まで実習中）

※ ※ ※

### 日本滞在のピーク

日本に来てからはほぼ3ヶ月になり、ドイツに帰るまでもまた3ヶ月になりました。今がピークと言えるかもしれません。

クリスマスの前日、私は高松行きの内定をもらいました。香川大学の秦先生とボンーライネーズィーク大学の間で、インターンシップ交換受入を調整し、私のNTTドコモ四国でのインターンシップが実現しました。私の専攻はテクニカル・ジャーナリズムですので、ドコモでは広報、営業やビジネス・ソリューションについて学んでいます。

インターンシップは、私がここに来た一番の理由ですが、他にも理由があります。私は高校の頃から日本について身近に知るようになりました。まず、日本人のクラスメートができ、マルタの英語学校では日本人がルームメートでした。ボンで



香川の新しい友達と（左端が Konstanze さん）

勉強している間にもたくさん日本人と知り合いました。最初はただ日本の友達に会いたと思っていましたが、しばらく日本で日本人のように住んでみたいとひそかに思うようになりました。日本人と同様の家に住み、写真やテレビだけから知っている畳の上で寝てみたい。本物の日本食を食べ、より深く内側から見た日本の特性を知りたいと思いました。

私がここに来たはじめの頃は、日本の特性について、よくホストファミリーや会社の人たちと話しました。選挙カー、深い浴槽、学校の制服、地上にある電線、丁寧で静かな日本人……。しかし、数週間後には明白な違いを挙げていくことが難しくなり、違いを見つけることが大切だと思えなくなりました。

日本で、ほとんどの旧知の友人と会うことができ、新しい友人が職場でも職場外でもできました。日本の文化や生活様式について多くの興味深い新発見ができました。同時に、私にとっても馴染み深いことも、日本での生活を楽しいものにしてくれます。このように私の日本滞在はピークを迎えています。なぜ日本が好きになったのか分かってきたので、ドイツに戻ったら日本をなつかしく思うだろうと、今から思います。

(Konstanze Lang, ボンラインズィーク大学、株式会社NTTドコモ四国にて4月7日から8月29日まで実習中)



工学部生に英会話レッスン中の田中君（右奥）

※ ※ ※

### 日米交流の第一歩

私は、アメリカのバージニア州立工科大学の3年生です。私の両親は日本人ですが、私はアメリカ生まれで、ずっとアメリカで生活しています。大学の夏休みを利用して、香川大学工学部へインターンシップに来ました。というのも、祖父母が綾南町に住んでいるからです。

私は、日本人でありながら、またアメリカ人でもあり、小さい頃から、いつかは絶対、日本とアメリカの交流のために何かをしたいと思っていました。今、その第一歩が踏み出せたようで満足しています。香川大学工学部でのインターンシップでは、希望する学生に英会話を教えています。英会話のレッスンでは、学生への英語指導だけでなく、学生から日本文化について直に話を聞く機会を持つことができ、新たな発見の連続です。

8月の終わりに秋学期が始まるので、バージニアに帰りますが、この夏、香川大学で体験したことは、私の人生にとって、すばらしい宝物になるでしょう。学生の皆さんには、短期間でも海外に出ることを是非おすすめします。想像もできないくらい自分自身が成長する機会になると思います。

最後に、お世話になった皆様へ、心から感謝しています。

(田中崇仁、バージニア州立工科大学、5月26日から7月17日まで香川大学工学部で実習中)

【トピックス】 工学者としての基礎専門知識を試験する、国際的な FE(Fundamental Engineering) 試験に、知能機械システム工学専攻修士1年の佐野弘幸君、湯野恵輔君の2名が合格しました。

## 国際会議で学生が受賞

4月22日～25日に韓国で開催された国際会議“Vehicular Technology Conference”にて、信頼性情報システム工学専攻2年の平地真也君（指導教官：生越教授）が、“IEEE VTS Japan 2003 Young Researcher’s Encouragement Award”を受賞しました。この賞は移動通信分野で最も権威のある同会議で発表を行った学生を対象に

IEEE VTS Japan Chapter から贈られる賞で、論文“Traffic Model for Multimedia Mobile Radio Communications”に対して送られました。（広報室）



## 交通安全公開セミナー開催

交通安全意識の向上、交通事故の減少を目的として、交通安全公開セミナー（主催：香大工学部、共催：県警、県教委、高松桜井高校他）を6月9日（月）に開催しました。学官共同企画、参加者の多様性、教育研究一体化、Web上での同時公開などの特徴があり、交通安全教育について全国初の新しい試みです。

高松桜井高校1年生283名、一般県民の方46名、本学部3年生105名が参加し、県警による交

通事故発生状況の紹介、本学部呉景龍教授による「人間科学と交通安全」の講演と研究開発成果説明、自転車運転時の危険予測トレーニングなどのプログラムで学習しました。本セミナーは年齢、部門、所属などの枠を越えた地域交流型の新しい交通安全教育活動であり、地域社会の高い評価が得られて新聞・テレビでも報道されました。今後、8月10日（日）、12月1日（月）にも同セミナーを実施して行く予定です。（広報室）

## オープンキャンパスを開催します

今年も以下の要領でオープンキャンパスを開催します。皆様のご来場をお待ちしています。

日時：8月10日（日）10：00～17：00

対象：小中高校生、一般

内容：工学部・地域開発共同研究センターのすべてを一般開放し、研究説明、デモ、アトラクションなどを行います。

交通機関：①コトデンバス 65川島線（レインボー通り経由「香川大学工学部前」下車徒歩1分）高松駅発バス8番のりば9:24, 10:00, 10:49, 12:00, 13:14, 14:00 発（臨時便含む）、②コトデンバス 61サンメッセ香川経由川島線（「サンメッセ香川」下車、西へ徒歩10分）

③琴電琴平線「太田駅」下車、東へ徒歩25～30分  
駐車場：利用可能

## トピックス

### 学術賞受賞等

3月19日（水）郭書祥助教授、IEEE電気電子学会上級メンバー

3月28日（金）大平文和教授、2003年度精密工学会春季大会学術講演会ベストオーガナイザー賞

5月13日（火）若林利明教授、2002年度日

本トライボロジー学会技術賞

6月2日（月）生越重章教授、第53回「電波の日」四国総合通信局長表彰

編集：工学部広報室

電話：087-864-2000、FAX: 087-864-2031

e-mail: info@eng.kagawa-u.ac.jp

<http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/news/>